

# 酒々井町郷土研究会々報

第65号

平成4年7月1日発行  
酒々井町郷土研究会  
編集部

## 酒々井海隣寺跡考

相京晴次

海隣寺は現在、佐倉市役所に隣接した地にある時宗の寺院です。戦国時代に千葉氏の一族、馬加康胤の菩提寺のあった千葉市馬加(墓張)から移されたといわれています。

当時千葉氏も二派に分かれて同族が争い、馬加康胤、原胤房などの軍は猪鼻城の一六代胤直を攻め亡ぼし、康胤が一七代千葉介を名乗ったことは一般に知られていることですが、これから二十数年後の文明一〇年(一四七八)ごろ、千葉氏の居城が本佐倉に築城された時に海隣寺も馬加から酒々井に移され、このあと二六代親胤、或いは二七代邦胤の代に、相模の北條氏の手すめに従って、城を本佐倉から地の理を得た佐倉鹿島台に移城することに成り、工事を始めた

段階で海隣寺も酒々井から現在地に移したという説が一部史家に伝えられております。このことは『佐倉市史』第一巻に「次に海隣寺のことであるが、初めに馬加にあったのを千葉氏の本城が千葉の猪鼻から本佐倉に移った文明一六年以後に移したものである。いま酒々井町の県道沿いの大谷家(忠左衛門)の反対側の地に旧海隣寺の跡がある。その後、酒々井から現在の海隣寺に移転したのは、千葉介邦胤が岳父である北条氏政のすすめで、本佐倉から鹿島台に本城を移そうと天正年間に築城工事を始めた際、同寺を現在地に移したものであろう」と断定的に記されています。

この当時、筆者をはじめ古川正、鶴岡嘉祐氏など、郷土史に

関心をもちつものが、海隣寺跡について大谷家を始め心当りを調査しましたが、それらしい形跡が見当らず、酒々井の海隣寺跡説には否定的になっていったことは事実です。

このような環境の中で去る日、酒々井字馬場の畑の中に古い墓石の一部があることを耳にして調べたところ、この墓石は宝篋印塔の一部であり、明徳三年(一三九二)の年号があり、さらに付近から室町時代に盛行した青石板碑が発見されており、さらにこの付近は通称、塚場と呼ばれていたことなどが判り、寺院跡であることが考えられ、そこで佐倉市史にあった海隣寺跡説が浮上して、年代考証をしてみると、次のことが判りました。

(一) 海隣寺が馬加から移されたのは文明一〇年(一四七八)以降であること。

(二) 明徳三年はこれより八十余年前であり、海隣寺には該当しないこと。

(三) 海隣寺が馬加から酒々井に移された際にこの宝篋印塔も一緒に移され、海隣寺が現在地に

移転の際に置き去られたこと。  
(四) この地は千葉氏が本佐倉城を築く以前の猪鼻城時代に、白井や伊藤同様千葉氏縁故の豪族がいて寺院があり、そこに海隣寺が移されてきたが、酒々井から佐倉に移る際に古い破壊された墓石を置き去りにしたこと。以上四つのが考えられます。若し海隣寺が、馬加、酒々井、佐倉と移転したとすれば(四)が最も可能性があると考えられますが、どんなものでしょう。



馬場の畑の中にある墓石

海隣寺跡に仮定されている地は酒々井字馬場、大谷家の西裏通りに近く、勝蔵院の地続きの地です。

墓石の銘文は「乃至法界、平等利益、明徳三年壬申、仲冬、十七日、□□□敬白」とあります。

神崎・佐原・多古見学の記

山口 洪子

桜花の下一人がお座敷を作れば数人集り、持ち寄った肴に配られたお弁当で舌鼓をうち、好天気に恵まれて小きな花見の宴、観福寺さんの境内も曰本寺さんの参道も共に気に入りました。なにげなく咲いている草や花々(一寸採って持ち帰りたがと内心思いつく)歩いて楽しいこの様な所が酒々井から程遠くないところにあったのです。日蓮宗の学問所として明治の初めまで存続した中村檀林、正東山(日本寺)は壇家のいないお寺と聞き、(このお寺さんこの先どうなるのだろうか)ふと心に寺の将来が案じられたが、現貫主、今井是観上人はお年八十四歳とも思われぬお元氣なお方で、いつ終わるか分からないお説話と、案内に驚いた、時間の経つのを忘れてしまいました。小々の旅とて、神社仏閣仏像を囲む風景、温泉、味覚の三種の神器が併わって遠くへ遠くへとゆられて出かけるが、今回連れて行つてくださった所は全部備わっていると思ふ。多古の日本寺、神崎の地酒、松崎の成田温泉を組めばこれが一コースとなるのではないか。(私好みながら)野辺を歩いての草花の採集、見学する文化と歴史に自分の中で比重が出来上がります。そうして集めて育てた草や花は、年々春秋を賑わせ

てくれるが、耳や目に入れたつもり説明やなにかはコロリと忘れてしまつていくことが多い。

若い時には感じなかったが年を重ねるごとに、寺、仏像など日本文化の始まりであるのを見えて来て、最近とくに心引かれるものを発見することがある。見学会(私はこうよんでいる)に参加する度に誰彼が教えてくれたり、ヒントを与えてくれたりする。有難いことです。 合掌



史談会案内

昨年二月九日より始めました「酒々井町の年中行事」を読む会が本年五月十九日をもちまして終了しました。大正末期より昭和初期にいたるまでの民俗研究として行事や習慣、今は忘れ去られているもの、懐かしい記憶に残っているもの、現在もそのまゝ伝わっているもの等大変勉強になりました。ご参加の皆さまいかがでしたでしょうか。意義あるよき習慣、行事は後世へと大切に伝えて行きたいものです。次回(七月十一日)からは「石仏と文化財」と題して勉強します。目と耳と足で、ある日は屋内ある日は屋外

へと、石仏を通して酒々井町の歴史を築きみながらの勉強会です。皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 七月十一日(土)午後一時半  
場所 酒々井町中央公民館・会議室  
一回目一月と八月はお休み  
します。(会日記)

史跡めぐり

六月十四日の史跡めぐりは、雨も降らず照りもせずのお天気のもとで実施しました。

参加者三十二名、九時十分公民館を出発しました。真言宗東光寺を皮切りに下台の麻賀多神社にお参りし、旧芝山道を歩いて墨の泉光院へ、訪れる我々のために墨の清水よきさんは、一人で境内の草刈りをして下さったとか、お陰で綺麗になった境内と、お堂の戸もあげて下さったので仏像を拝見することが出来感謝いたしました。コース外の墨の分校跡地も見、六所神社を目指したものの左の道を迷ひコミュニティセンターに着く。完成したばかりのハーブ園で植物観察、すまみなハーブ園です。昼食場所の六所神社には予定より一時間遅れて到着、お茶を用意して待つて下さった玉井さん、清水よしさん、斎藤清美さんお三方には大変ご心配をお掛けいたしました。熱いお茶に舌鼓をうち、清水さん手作りのソーダ、の煮物と、ソーキウウの接待に大感激、ピラも有難うございました。おいしく頂きました。午後は泉福寺、伊豆神社、飯積の大杉

を見、オリエンテeringベテランの西村さんの先達で飯積村道標に着く。尾上の双体道祖神と住吉神社は京増町、さん宅の裏、汗をかいた肌にも高い位吉神社の涼風は心地よい限りでした。これで終了、家路につきました。(上田記)

会計報告
4月17日・4月20日 案内見学会 参加者数 66名
収入 会費1,700円 112,200
支出 119,160
差引 -6,960円 郷土研より補充
4月23日 山菜を食べる会 参加者数 70名
収入 会費1人300円 35,000
支出 各種材料代 35,592
差引 -592円 郷土研より補充
5月15日・16日 栗外一泊 参加者数 30名
収入 会費1人20,000円 600,000
支出 638,592
差引 -38,592円 郷土研より補充
注:バス代 498,624
資料道路 16,000
食事代外雑費 123,938

郷土研日誌 48~68
月日 内容 参加者数
4月18日 史談会「酒々井町の年中行事」を讀む会 20名
17日 案内見学会 神崎・佐原・八日町方面 A班 33
20日 〃 〃 B班 35
21日 山菜を食べる会 準備 3
22日 〃 〃 7
23日 山菜を食べる会 70
28日 史跡文化財愛護活動 33
5月9日 史談会「酒々井町の年中行事」を讀む会 18
12日 名勝探訪 深川方面 48
17日 一泊見学会 松本・鹿野湯・別所方面 30
5月28日 名勝探訪 護国寺方面 39
5月 運営委員会 19
5日 史談会「天香会」 18
14日 史跡めぐり 墨・飯積・尾上方面 22
16日 環境政策委員会 5
25日 会報校正 9
30日 会報発送 18



暑中 お伺い申しあげます 運営委員会一同



信州の鎌倉を訪ねて

滝川京子

遅くなつて席は前の会長さん隣席のみの空席。...

今日はお天気もよく汗ばむ暑さ。アルプス連山が右手に見えてくる。...

玄関でビニール袋を渡され、靴は各自持参をとの声に一同がフクリ。...

七時半の早立ち、前山寺・北向観音・安楽寺・常楽寺と何処の古刹も静寂が包み、...

この度は役員不足のため滝川様には大変ご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫言申し上げます。...

深川に江戸を探る

野中カズ子

五月十二日、昨年来、二度も雨に流れていた深川を勝探訪か、やつとお天気に恵まれ四十八名の参加者で実行されました。...

感謝の気持ちをお忘れかけている我が心に染み入り、反省の一時を過ごしました。...



みん衆のようにつぎつぎです。かこんで休みのようにつぎつぎです。かこんで休みのようにつぎつぎです。...

くんと深川江戸資料館。昼食を済ませてから見学。江戸末期の深川の町の一角を奥寸大に再現した展示室は、生活用品もそのままで、...

又、七月十二日(日)もよろしく！ (青木和子記)

郷土研行事業内

平成4年7月~9月

	7月	8月	9月
史談会	11日(土) 午後1時30分 (No.1) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館・会議室	休 み	12日(土) 午後1時30分 (No.2) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館・会議室
名勝探訪 野草の会	6日(月) 京成酒々井駅 8:26発 名勝探訪 日暮里方面 (中止) 酒々井 日暮里 本行寺 経王寺 養福寺 浄光寺 諏方神社 西日暮里公園 青雲寺 修性院 前泉寺 延命院 昼食 日暮里(解散) 『入谷朝顔市』は希望者	休 み	24日(木) 京成酒々井駅 8:38発 名勝探訪 麻布方面 (中止) 酒々井駅(8:38) 人形町 広尾 有栖川記念公園 大使館めぐり 善福寺 麻布十番 六本木 上野 酒々井駅 都合によりコース及び見学地の変更がありますので了解下さい
史跡文化財 愛護活動	7月12日(日) 午前7時	作業場所 (1)上岩橋貝層 (2)カンカン口横穴群 (3)伊篠松並木	(雨天中止) 代替日 7月19日(日)
郷土史講座 (教育委員会共催)	8月9日(日) 午後1時30分開講	場所 酒々井町中央公民館・視聴覚室	演題 「戦国時代の佐倉の人々」 講師 千葉県立佐倉高等学校教諭 戸山 信司 先生 視聴の程よろしくお願ひ申し上げます

見学案内

名勝探訪 7/6(日) 7/24(木)

日暮里方面 7/6(日)

江戸時代「日暮しの里」は景勝遊山の地として知られ、江戸庶民、文人が楽しんだ所、昔を偲びながら歩きます。

京成日暮里駅下車、御殿坂の途中の本行寺(月見寺)へ、次に山門の扉に弾痕残る経王寺で彰義隊士をかまくまいた時代にタイムスリップして下さい。養福寺には運慶作と伝えられる仁王様が有り、次に訪れる浄光寺は曹見寺ともいわれて、隣接する諏方神社で拍手をうち高台の眺めを楽しみます。少し歩き西日暮里公園で涼風に吹かれて一休み、道灌山通りをまたげば男子教育の館、開成中・高校が目の前に、左方向に転じ堀田正亮侯所蔵の青雲寺(花見寺)へ、ここには谷中七福神の恵比寿さまあり、次に修性院(花見寺)へ、ここは布袋さま。次に前泉寺を登って道中にある竹工芸店の芸術品を見るのも一興。次は延命院(七面堂)樹齢六〇〇年の大権は都指定天然記念物。お願ひペコハコ昼食をとりませう。昼食後日暮里駅で解散。六日は「入谷朝顔市」開催中、希望者は鶯谷駅で下車、朝顔市を楽しみ帰路につきます。

◎麻布大使館めぐり 9/24(木)  
東京でも有数のお屋敷街麻布は、また幕末以来の外交の街です。居並ぶお屋敷の表札がなんなんだ、みーんな横文字ノ、居留地にも迷い込んだよう。広尾の駅を降りるとかつて有栖川宮邸であ



った有栖川宮記念公園。このあたり五分以内の一円にドイツ、フランス、スイス、ノルウェーと十指に余る大使館があつてすれ違ふ人の半分が外国の人といった感じ。

麻布山善福寺は空海創建という古刹で、境内には「麻布七不思議」のうち「柳の井戸」、「逆さ銀杏」があります。我が国初のアメリカ公使館がおかれたのもこの善福寺で、本堂は初代アメリカ公使ハリスが住まうたところ。

江戸時代以来の老舗の並ぶ麻布十番で元祖調虎でも買つて六本木から帰ります。

植物の種子の写真展案内

石川茂雄「写真でみる植物種子の世界」展  
日時 七月(八日)〜(二六日) 日  
場所 川村美術館ギャラリー(入場無料)  
交通 京成佐倉駅前より送迎バス有  
問い合わせ (電)四九八一二一四三

◎石川茂雄氏は現在千葉市緑化植物園の嘱託として活躍中、東大植物学教室出身、弘前大学教授を経て現在にいたる。

◎本本先生から植物のお好きな方には見ていただくたいとのことでした。

只今、結婚二十七年目にして初めて夫婦二人きりの生活しています。

三月三十一日、息子は社会人、娘は学生として寮生活をスタート。四月、夫も妻もお互いの淋しさを思いあい。五月、その反動がでて。六月、元の木阿弥。さあ七月、夏休み、娘が帰ってくる。久しぶりにお母さん出来る。

あとがき

